

2022年度 第1回 入学試験問題

国 語 (50分)

解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

一 次の——線のカタカナ部分を漢字に直しなさい。

- 1 熱をサ^サます。
- 2 ジセキの念にかられる。
- 3 コクモツを備ちくする。
- 4 シヨメイ運動に協力する。
- 5 リヨカンに泊^とまる。
- 6 カンムリヨウとなる。
- 7 三年の歳月^{さいげつ}をへる。
- 8 借金をカンサイする。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(句読点や記号も一字と数えます。)

「ナンバー1しか生きられない」

じつは、生物の世界では、これが鉄則です。

理科の教科書には、ナンバー1しか生きられないという法則を証明する「ガウゼの実験」と呼ばれる実験が紹介^{しょうかい}されています。旧ソビエトの生態学者ゲオルギー・ガウゼは、ゾウリムシとヒメゾウリムシ^Aという二種類のゾウリムシを一つの水槽^{すいそう}でいっしょに飼う実験を行いました。

すると、どうでしょう。

最初のうちは、ゾウリムシもヒメゾウリムシも共存しながら増えていきますが、やがてゾウリムシは減少し始め、ついにはいなくなってしまう。そして、最後には、ヒメゾウリムシだけが生き残ったのです。

二種類のゾウリムシは、エサや生存場所^{うちは}を奪^{うば}い合い、ついにはどちらかが滅^{ほろ}ぶまで競^{きそ}い合います。そのため、一つの水槽に二種類のゾウリムシが共存することはできないのです。

「ナンバー1しか生きられない」

これが自然界の厳しい鉄則なのです。

競争は水槽の中だけではありません。

自然界は、^②(x)肉 (y)食、激しい競争や争いが日々繰り広げられている世界です。あらゆる生き物がナンバー1の座を巡って、競い合い、争い合っているのです。

しかし、不思議なことがあります。

自然界には、たくさんの生き物がいます。

もし、ナンバー1の生き物しか生き残れないとすれば、この世の中には、ナンバー1である種類の生き物しか生き残れないことになります。それなのに、どうして自然界には、たくさんの種類の生き物がいるのでしょうか。

ゾウリムシだけを見ても、自然界にはたくさんの種類のゾウリムシがいます。

もし、ガウゼの実験のようにナンバー1しか生きられないとすれば、水槽の中と同じように、自然界でも一種類のゾウリムシだけが生き残り、他のゾウリムシは滅んでしまうはずです。

これは、どうしてなのでしょうか？

a

、自然界にはたくさんの種類のゾウリムシがいます。

じつは、^③ガウゼが行った実験には、続きがあります。そして、この実験が大きなヒントとなるのです。^④

続きの実験では、ガウゼはゾウリムシの一種類を変えて、ゾウリムシとミドリゾウリムシという二種類で実験をしてみました。

b

、どうでしょう。

驚くことに、どちらのゾウリムシも滅ぶことなく、二種類のゾウリムシは、一つの水槽の中で共存をしたのです。

これは、どういうことなのでしょうか。

じつは、ゾウリムシとミドリゾウリムシとは、違う生き方をしていました。

ゾウリムシは、水槽の上の方において、浮いている大腸菌をエサにしています。これに対して、ミドリゾウリムシは水槽の底の方において、酵母菌をエサにしているのです。

そのため、ゾウリムシとヒメゾウリムシのときのような争いは起きなかったのです。

「ナンバー1しか生きられない」

これは、間違いなく自然界の鉄則です。

しかし、ゾウリムシもミドリゾウリムシも、どちらもナンバー1の存在として生き残りました。

□c、ゾウリムシは水槽の上の方でナンバー1、ミドリゾウリムシは水槽の底の方のナンバー1だったのです。

このように、同じ水槽の中でも、ナンバー1を分け合うことができれば、競い合うこともなく共存することができます。生物学では、これを「棲み分け」と呼んでいます。

自然界には、たくさんの生き物が暮らしています。

つまり、すべての生き物は棲み分けをしながら、ナンバー1を分け合っています。

そのように、自然界に生きる生き物は、すべての生き物がナンバー1なのです。

自然界には、わかっているだけで一七五万種の生物が生存していると言われているのですから、少なくとも一七五万通りのナンバー1があるということになります。

ナンバー1になる方法はいくらでもあるということなのです。

ナンバー1しか生きられない。これが自然界の鉄則です。

自然界に暮らす生き物は、すべてがナンバー1です。どんなに弱そうに見える生き物も、どんなにつまらなく見える生き物も、必ずどこかでナンバー1なのです。

ナンバー1になる方法はいくらでもあります。

この環境であれば、ナンバー1、この空間であればナンバー1、このエサであればナンバー1、この条件であればナンバー1
……。こうしてさまざまな生き物たちがナンバー1を分け合い、ナンバー1しか生きられないはずの自然界に、多種多様な生き物が暮らしているのです。

自然界は何と不思議なのでしょう。

そして、ナンバー1はたくさんいますが、それぞれの生物にとって、ナンバー1になるポジションは、その生物だけのものです。すべての生物は、ナンバー1になれる自分だけのオンリー1のポジションを持っているのです。そして、オンリー1のポジションを持っているということは、オンリー1の特徴を持っているということになります。

(稲垣栄洋『いながきひでひろ「はずれ者が進化をつくる」筑摩書房より

問一 — 線① 「生物の世界」とありますが、これと同じ意味で使われている言葉を文章中から三字で探し、抜き出して答えなさい。

問二 — 線A 「ヒメゾウリムシ」、線B 「ミドリゾウリムシ」について

(1) 「ヒメゾウリムシ」は水槽のどこにおいて、何を食べていると考えられますか。次の文の空らんⅠ・Ⅱに当てはまる三字の言葉を文章中から探し、それぞれ抜き出して答えなさい。

ヒメゾウリムシは水槽の () Ⅰ () において、 () Ⅱ () を食べている。

(2) この二種類のゾウリムシを同じ水槽で飼ったらどのようなことになるか。最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア、ヒメゾウリムシのみが生き残る。

イ、ミドリゾウリムシのみが生き残る。

ウ、二種類とも生き残る。

エ、二種類とも死滅する。

問三 — 線② 「(x) 肉 (y) 食」とありますが、(x)、(y)に入れるのにふさわしい漢字一字をそれぞれ答えなさい。

問四 空らん a、b、c に入る最もふさわしい言葉を次のア～カの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号をくり返すことはできません。

ア、つまり イ、あるいは ウ、すると エ、もし オ、さて カ、しかし

問五 — 線③ 「ガウゼが行った実験には、続きがあります」とありますが、「続き」の実験によってわかったことはどういうことですか。次の文の空らんⅠ・Ⅱに当てはまるそれぞれ十字と二字の言葉を文章中から探し、抜き出して答えなさい。

棲み分けをしながら（Ⅰ）ことで、二種類のゾウリムシが（Ⅱ）できること。

問六 — 線④ 「この実験が大きなヒント」とありますが、どのような疑問を解く「ヒント」ですか。「（ ）のに、（ ）のはなぜか」という形にまとめて答えなさい。

問七 — 線⑤ 「必ずどこかでナンバー1なのです」とはどういうことか説明しなさい。ただし、次の二つの条件を満たして答えること。

1. 「すべての生物は」という言葉に続くように説明すること。
2. 「特徴」「生き残る」という言葉を用いること。

すべての生物は、（ ）。

問八 本文を読んだ四人の生徒が意見を交^かわしています。次のア～エはその一部です。この中から本文の内容と一^{いっ}致^ちしているものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、ガウゼの実験で同種の生き物は同じ場所でしたか生きられないことがわかったね。
イ、場所が違ってても、生物の世界の中では弱者は生存できないんだよね。

ウ、そんなことはないよ。弱者は脳を進化させることで生存を可能にしているよ。
エ、どんな生き物でも、生物の世界の中で生きる方法を持っているといえるね。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(句読点や記号も一字と数えます。)

放課後、一人で校門を出て歩いていると、

① 「小柳さん」とうしろから呼ばれた。

ふりむくと、風紀委員の野島くんだった。

男子に、からかわれるんじゃないかと、話しかけられるのは初めてだった。

「あのさ、ずっとときこうと思ってたんだけど」

ちよつとためらうように、野島くんは唇を湿らせた。

「坊主になったとき、切った髪はどうしたの？」

「え？ どうしたって？」

② 「ヘアドネーションとか、したのかなと思って」

「へあどねーしょん？」

「きいたことない？ 切った髪を、病気で髪の毛をなくした子どもの、ウィッグにしようっていう取り組み」

「え、そんなのがあるの？ 知らなかった」

「そっか。小柳さんの髪、長くてきれいだったから、惜しかったな」

野島くんは、残念そうに **A** をふった。

「よく知ってるね、ヘアドネーションなんて」

「おれんち、母さんが美容室やってさ、髪を提供したいって人がいたら、ボランティアで切ってあげて、NPO法人のジャーダックってとこに送るんだ。そしたらそこが、子ども用ウィッグに加工してくれるんだ。長さとか、条件はあるんだけどね」

「ふうん」

そんな取り組みのを知っていたら、寄付したのに、と詩音は残念に思った。

「それとは話がちがうけど」

野島くんは、少し長めの前髪をかきあげていった。

「近ごろ、小柳さんみたいな刈りあげのオーダーって、増えてるらしいね」

「え、ほんと？」

「ほんとだって。母さんもそういつてるし」

疑われてると思ったのか、野島くんは眉をキュッとあげた。

「坊主って、だれでも似合うってわけじゃないんだぜ。ひたいの広さとか、あごの線とか、後頭部の丸みとか、あと顔のパーツがはっきりしてるとか、そういうの、けっこう大事なポイントなんだ。その点、小柳さんは、似合う条件を備えてるからね。母さんが見たら、うちのモデルになつてくれて、いいだすかも」

まんざら、おべんちやらでもなさそうにいった。

「そう、考えたことなかった」

「だろ。だから、いつておきたかったんだ。坊主は男がするものだって、たいていの人が思ってるけど、女の人が出たってカッコいいんだぜ。それにさ、坊主にしてる人って、ジェンダー意識が高いっていうか、考え方も自由で、はばが広くて、个性的な人が多いんだ。それっていいよな」

野島くんは、詩音も同じ気持ちだと信じてるみたいにいった。

「あ、うん」

詩音がうなずくと、野島くんはうれしそうに B を細めた。

「おれも坊主にしたいんだけど、ちよつとムリなんだなあ」

「どうして？」

「後頭部がぜつべきなの。もう、悲惨なまでに、首まで一直線」

「へえ」

「坊主が似合うって、選ばれたやつなんだぜ。だから、だれになにをいわれようと、自信持てよな」

わたしを励まそうとしてくれてるんだ、と詩音は思った。いつも一人ぼっちでいるわたしに、エールを送ってくれてるんだと。

「うん、ありがと」

「おう」

ちよつとテレたように、野島くんは、じゃあな、と手をふって速足で歩いていった。

「サンキュ」

詩音は小さく声を出していった。

家族以外のだれかと、こんなふうにしやべったのは何日ぶりだろう。

スーパ―にいつても、コンビニにいつても、ジロジロと、⑤ 珍しい動物でも見るような目で見られた。

男の子とまちがわれることもしょっちゅうだった。そのたびに気持ちが悪く感じた。

教室で、女子のグループが話していたことも、Cにひっかかって、心を重くしていた。

けれど、野島くんのおかげで、少し気持ちがうわむきになった。

この話、お姉ちゃんにもしてあげよう。少しは気分が晴れるかもしれない。

それにしても、自分はよほど自信なさそうに見えるのだなと、反省した。

もっとCをはって、堂々としていよう。

詩音はぐつとあごをあげて、背筋をのびして歩き出した。

道路沿いには、レストラン、美容室、喫茶店、ベーカリーなどの店が建ち並んでいた。

それに平行して走る歩道には、街路樹のイチョウの木が、青々とした葉っぱを茂らせている。

店が途切れた場所に、畳二枚分くらいの、広告用の看板が、ぼつぼつとあらわれる。

その中の一つを目にしたとき、詩音は思わず足を止めた。

さまざまな色の肌と毛髪を持つ人たちが、それぞれの好みの服装で、大きく口をあけてこつちをむいて笑っていた。

長い金髪を三つ編みにした褐色の肌の男性。

黒髪をショートカットにした白系の女性。

チリチリにカールしたオレンジの髪に、サングラスをかけた東洋系の女性。

緑と黄色に染め分けた髪を、ばさりと肩にたらし黒人の男性。

ほかにも、数えきれないほどたくさんの人たちがいた。

広告なんだからと思っても、その人たちの目が、みんな輝いているように見えた。

「もっと自由に。もっと多様に。」

左はしに書かれたコピーの下に、テレビCMでもよく見聞きする、ヘアカラーの会社名があった。

さつき、野島くんがいった言葉がよみがえった。

D

野島くんの言葉に、詩音はあいまいにうなずいた。

だけど、どういう意味なのか、知らなかった。あのポスターと、どこかでつながっている気がした。

夕飯のあと、お姉ちゃんの部屋のドアをノックした。

「詩音だけど、えっと、ききたいことがあって」

「どうぞ」

そつとドアを押すと、お姉ちゃんは机にむかって、本を読んでいた。

髪が頭の形に沿うようにのびて、地肌はもうすっかり隠れてかくいた。

(中略)

詩音がなかなか話しださないので、お姉ちゃんは首をひねって詩音を見た。

「なによ」

「あ、えっと」

不意をつかれてあわてた。

「ジェ、ジェンダーってなんだろうと思って」

「へえ、そんな言葉、どこで聞いたの？」

「友だちが使ってた」

いいながら、野島くんは友だちだろうかと思った。

「へーえ、近ごろの小学生って、あなどれないんだなあ」

お姉ちゃんは、いすのむきを変えると、詩音のほうを見て、両手を頭のうしろで組んだ。

「うーん、そうね、たとえば、子育ては女性の仕事。男性は外で働いて、家族を養うって考え方があるでしょ。これは、生まれつきの性別じゃなくて、社会で作られた性別なの。この作られた性別で、役割に男女差をつける、それがジェンダー。こんなのでわかる？」

「うーん」

詩音はうなづいた。いまひとつ、ピンとこない。

「会社で、重要な役職は男性、お茶くみとか事務は女性、というのもジェンダー」

「ああ」

「料理がうまくて、よく気がつく人は女らしい、つらくても、弱音を吐はかないのが男らしい、ていうのもね。その性差をなくしていこうというのが、ジェンダーフリー」

「ふうん。あ、もしかして、お姉ちゃんが坊主にしたのも、そのジェンダーをなくそうって思ったから？」

「ファッションとか、ヘアスタイルはジェンダーレスっていうらしいけどね。それに、わたしは、たんに校則を変えたくて坊主に

したの。わけのわからない校則にしばられて、高校生活を終わらせたくないからね。でも、結局ジェンダーにこだわったことにな
るのかな」

お姉ちゃんは、そういつて笑った。

⑦ そっか、さつき見たポスターは、ジェンダーレスを呼びかけていたんだ。

そして野島くんも、詩音がジェンダーフリーを目指していると、思ったのかもしれない。

だけど、詩音はジェンダーフリーも、ジェンダーレスも知らなかった。

詩音が坊主になったのは、お姉ちゃんのすることを応援したかったからだ。

前むきな自分が変わることを、期待したからだ。

「詩音、学校でいじめられてない？」

いきなり、お姉ちゃんがきいた。

「え？ ううん。だいじょうぶ」

急いで **A** を横にふって、笑顔を作った。

「坊主はもうやめるんだよ」

「……」

⑧ 「詩音が坊主になったとき、わたし、すごく怒ったでしょ。でもね、詩音の気持ち、ほんととはとつてもうれしかった」

「え、ほんとに？」

「うん。姉妹ってありがたいつて思ったよ。気の弱い詩音が、よく坊主になったなあつて」

そうだったのか、と詩音は胸のかたまりが、溶けていく気がした。

「でもね、詩音が学校でどんな思いをするか、見当がつくから怒ったの。女子の坊主を歓迎する学校が、あるとは思えないから」

いたわるような声でいった。

「それにね、パパとママのことを考えるとつらいの。一人でもショックなのに、二人となるとね」

そういわれると、詩音の胸もシクツとした。

「とくに、パパの女性観は古いから、心の動揺も大きいと思うよ」

「でも……お姉ちゃんは……まだ続けるんでしょ」

「わたしのことはいいから、詩音は自分のことを考えなさい。自分がほんとはしたいこと、逆にしたくないことを、きちんと考え
て、行動にうつしてほしいな」

お姉ちゃんは、真剣しんけんな顔をしていった。

わたしは、お姉ちゃんのすることを支持したい。でもお姉ちゃんは、詩音にそんなことを期待していない。

「ほらほら、もう勉強じやまの邪魔じやましないで、いった、いった」

お姉ちゃんは詩音の背中を押して、ポンポンとたたいた。

しぶしぶと、詩音は部屋の外へ出た。

⑨ 自分おのれのしていることが、なんの役にも立っていない気がした。

(朝比奈蓉子『わたしあさひなようこの気になるあの子』ポプラ社より)

問一 —— 線① 「ふりむくと」とありますが、「ふりむ」いたのはだれですか。その人物の氏名を漢字で答えなさい。

問二 —— 線② 「へあどねーしょん」とひらがな表記にすることで強調されるのはどんなことですか。一文にまとめて説明しなさい。

問三 空らん 、、に入る最もふさわしい言葉を次のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号をくり返すことはできません。

ア、目 イ、肩 ウ、頭 エ、胸 オ、口

問四 —— 線③ 「小柳さんは、似合う条件を備えてる」について

(1) 「似合う条件を備えてる」のはどんな人であると「野島くん」は言っていますか。六字で文章中から探し、抜き出して答えなさい。

(2) 「野島くん」自身は坊主にしていませんが、「似合う条件」の中で特に足りないことは何ですか。「野島くん」に不足する「条件」を文章中から五字以上十字以内で探し、抜き出して答えなさい。

問五 — 線④ 「おべんちゃら」の意味として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア、かなり気に入ったことを遠回しに言うこと。

イ、まともに取り組まないでいい加減に言うこと。

ウ、口先ばかりで誠意のないお世辞を言うこと。

エ、他人が喜ぶ話をあれこれとまとめて言うこと。

問六 — 線⑤ 「珍しい動物でも見るような目で見られた」のはなぜだと考えられますか。「詩音は（ ）なのに（ ）から」という形にまとめて説明しなさい。

問七 — 線⑥ 「野島くんのおかげで、少し気持ちがうわむきになった」とありますが、「野島くん」の話を「詩音」はどのように受け止めましたか。それがわかる連続する二文を文章中から探し、一文目の始めの五字を抜き出して答えなさい。

問八 空らん D には「野島くん」のセリフの中の一部分が入ります。その一部分を含んだ「 」に入ったひとまとまりのセリフを文章中から探し、そのセリフの始めの五字を抜き出して答えなさい。

問九 — 線⑦ 「さつき見た見たポスターは、ジェンダーレスを呼びかけていたんだ」とありますが、「さつき見た見たポスター」のどんなところが「ジェンダーレスを呼びかけている」ことに結びつくのですか。ポスターの具体的な内容にふれながら詳しく説明しなさい。

問十 — 線⑧ 「詩音が坊主になったとき、わたし、すごく怒ったでしょ」とありますが、「お姉ちゃん」はなぜ「怒った」のですか。その理由を二つ、これより後の文章中から読み取り、それぞれ一文で簡潔に説明しなさい。

問十一 — 線⑨ 「自分のしていることが、なんの役にも立っていない気がした」とはどういうことですか。「詩音」が「していること」の目的を明らかにしながらくわしく説明しなさい。

国 語 (一)

| 受験番号 | | | |
|------|--|--|--|
| | | | |

| | |
|---|---|
| 氏 | 名 |
|---|---|

一枚目

二枚目

合計

一

| | | | | | | | | | | | | | |
|--|------|---|------|------|---|----|--|---|---|--------|------|--|--|
| <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">5</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">リヨカン</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">サ</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ます</td> </tr> </table> | 5 | 1 | リヨカン | サ | | ます | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">6</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">カンムリヨウ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ジセキ</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> </tr> </table> | 6 | 2 | カンムリヨウ | ジセキ | | |
| 5 | 1 | | | | | | | | | | | | |
| リヨカン | サ | | | | | | | | | | | | |
| | ます | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 2 | | | | | | | | | | | | |
| カンムリヨウ | ジセキ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">7</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">へ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">コクモツ</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">る</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> </tr> </table> | 7 | 3 | へ | コクモツ | る | | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">8</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">カンサイ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">シヨメイ</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"></td> </tr> </table> | 8 | 4 | カンサイ | シヨメイ | | |
| 7 | 3 | | | | | | | | | | | | |
| へ | コクモツ | | | | | | | | | | | | |
| る | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 4 | | | | | | | | | | | | |
| カンサイ | シヨメイ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |

二

| | | |
|----|----------|----|
| 問八 | | |
| 問七 | すべての生物は、 | |
| 問六 | | |
| 問五 | I | II |
| 問四 | a | |
| | b | |
| | c | |
| 問三 | x | |
| | y | |
| 問二 | (1) I | II |
| 問一 | (2) | |

国語 (二)

三

| | | | |
|------|--|--|--|
| 受験番号 | | | |
| | | | |

| |
|-----|
| 氏 名 |
| |

問一

| |
|--|
| |
|--|

問二

| |
|--|
| |
|--|

問三

| |
|---|
| A |
| |
| B |
| |
| C |
| |

問四 (1)

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

(2)

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

5

問五

| |
|--|
| |
|--|

問六

| |
|--|
| |
|--|

問七

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

問八

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

問九

| |
|--|
| |
|--|

問十

| |
|--|
| |
|--|

| |
|--|
| |
|--|

問十一

| |
|--|
| |
|--|